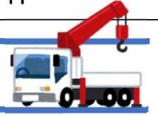


新しい「野洲市民病院」 ニュース Vol.5

令和 8(2026)年 11 月の竣工に向けて
工事の進捗状況などをお知らせします！



令和 7 年 3 月 9 日
＜お問合せ先＞
野洲病院新病院整備課
小篠原 1094 番地
077-587-6141



※トピックス※ 3月から本体工事が始まります！

◆◆ 新病院の起工式が挙行されました ◆◆

令和 7 年 2 月 1 0 日、3 月からの本体工事の着工に先立ち、整備事業者の主催で「起工式」が行われました。式典には櫻本市長や前川病院長が出席し、地元自治会の関係者や工事関係者など総勢 50 人とともに、工事の安全と無事の竣工を祈念しました。

令和 8 年 11 月の完成に向け、工事の安全を旨に進ちょく管理を確実に行ってまいります。



(主賓の挨拶を述べる櫻本市長)

◆◆ 新病院の設計内容を紹介します！(その4) ◆◆

新病院の内部をご紹介します！外来の診察室は、診療科別に 1 階と 2 階に分かれており、今回は 2 階の外来フロアです。

2 階の外来フロアへは、1 階のエントランスから 3 基のエレベータが稼働します。エレベータを降りたところには、自然採光を十分に取り込んだ「外来ラウンジ」があり、奥に向けて「外来ストリート」が広がっています。各「外来待合」の廊下の端からも自然光が十分入り、落ち着いた環境でお待ちいただけるよう設計しています。

また、各々の「外来診察室」は、裏側のスタッフ廊下で繋がっており、スタッフ動線も効率的になるよう設計しています。

①外来ラウンジと外来ストリート



②外来受付



【裏面もあります】

◆◆市立野洲病院の診療科について◆◆

新病院で予定している診療科は次のとおりです。

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓・人工透析内科、脳神経内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科（18診療科）

なお、4月からの診療科体制として、糖尿病内分泌内科、消化器外科、整形外科に、各1名、医師が増員されます。また、小児科の診察日が3日/週から5日/週に増える予定です。

脳神経内科につきましては、担当医師の定年退職等により、4月から当分の間、閉鎖することとなりました。ご迷惑・ご不便をおかけしますが、ご理解をお願いします。

☆☆スタッフ・診療科紹介…看護部長／認定看護管理者 小森久美子☆☆

市民のみなさん、こんにちは。看護部の小森です。

看護部では、患者さんの価値観や生活背景を理解したうえで、身体的ケアだけでなく精神的なケアも大切にした看護を実践しています。

看護師の業務は、

- ①医師の指示のもとに実施する「診療の補助」
- ②看護師独自の専門性をもって実施する「療養上の世話」です。

この2つの業務は、治療が安全に行なわれる上で切り離すことができず、私たち看護師は患者さんの一番近いところで気づきや判断のスキルを活用して療養生活を支えています。近年では、領域ごとの専門資格を取得した「特定看護師」、「認定看護師」といったエキスパートの看護師が、現場の看護力を向上させています。

また看護師は、「チーム医療のキーパーソン」といわれ、必要な医療が適切なタイミングで患者さんに提供されるよう、他の職種との連携を調整する役割を果たしています。医師の働き方改革に伴って多職種による連携が課題となる中で、看護師はその専門性を発揮して活動しています。

また、看護師自身が安心して成長し、活躍できる環境を整えること、そして人員体制を整えていくことが看護部長として大切な役割だと思います。地域の皆さまにとって安心して利用できる病院、そして職員にとっても働きやすい病院を実現するため、今後も努力を重ねてまいります。

私たちは新病院という新たなステージに向けて、これまで培ってきたことだけでなく、変化を恐れず挑戦し続ける組織に成長していきたいと思っております。



【看護部イメージキャラクター】
ヤスナースちゃん

-----歴史の井戸辺 医事にまつわる野洲の歴史散策 第3回-----

野洲市永原には明治の頃まで、^{やくいん}施薬院の領地があった。豊臣秀吉の侍医だった^{せんそう}施薬院全宗（1526～1600年）に与えられた土地である。

全宗は、もともと比叡山の僧だった。1571年の比叡山焼討ち後に医術を学んで医師となり、やがて秀吉の側近となっていた。

また、1585年頃、比叡山の復興に尽力しながら、奈良時代に存在した医療機関である施薬院を、豊臣政権下の京都に蘇らせたことでも知られている。医療機関である施薬院では、貧富や身分に拘りなく、誰もが無料で薬を受けることができたという。まさに仏教にいう慈悲の思想を、薬を施すことによって体現しようとしたのであった。

そんな華々しい活躍をした全宗は、野洲とは何の関りもない人物のように見える。

実は、全宗の妻の父は、永原城を拠点とした永原氏の一人、永原実賢だったと伝わっている⁽¹⁾。第2回に登場したイエズス会宣教師は、この実賢に会うために、永原を訪問したとも指摘されている⁽²⁾。そんな野洲にゆかりのある永原氏と、全宗は姻戚関係によってつながっていたのである。



江戸時代、施薬院があった付近
(京都市烏丸中立売)

【参考文献】1. 重澄ともされる。(野洲町史編纂委員会編『野洲町史第1巻 通史編1』1987年)
2. 松田毅一『近世初期日本関係南蛮資料の研究』風間書房、1967年。異説あり。
・宮本義己「豊臣政権下の医療体制—施薬院全宗の医学行跡を中心として」(『帝京史学』2号、1986年)